

学生・教師間の相互コミュニケーション 活性化への取り組み

Un essai pour favoriser la communication interactive entre les étudiants et les enseignants.

石丸 久美子 ISHIMARU Kumiko

Université des études étrangères de Kyoto

1. はじめに

本稿では、学生一人ひとりを良く把握し、コミュニケーションをとるための方策として、そして特に、大人数クラスへの対処法として、「紙媒体によるコミュニケーション」を提案したい。まず、他の研究者の方法を分析したあと、筆者が 2009 年度から、第二外国語授業を中心に、京都外国語大学の授業で使用している「今日のひとこと出欠表」（ミニッツ・ペーパー）と「中間、期末試験ミニアンケート」の試みを示し、そこに考察できる学生の姿、コミュニケーションについて言及したい。さらに、アトリエにご参加頂いた方々のご意見、アイデアを紹介する。

2. 他の研究者による先行例

人数の多いクラスを担当した際に、質問・コメントを交換でき、出席簿の代わりとなる「紙媒体によるコミュニケーション」が有効だという観点から、ここでは、学生に記述してもらおう形式を提案している事例を挙げてみたい。

2.1. 大木、西山、グラツィアニ『グラメール・アクティヴ』、Portfolio¹

文法教科書に付属のこのポートフォリオは、学生に、自らの学習、英語学習とフランス語学習、試験結果について回答してもらおうことで、自己分析させ、自律学習を促す。大変細かく、興味深い質問設定がなされているが、一般の教員が自らの授業でこれを真似することは非常に難しいのではないか。また学生が自己管理能力や自律学習能力を身につけるには優れているが、学生・教師間のコミュニケーションは無いと思われる。

2.2. 中村、長谷川『フランス語をどのように教えるか』、第3章評価、Minute paper²

授業ごとの学生の反応、疑問点、理解度を把握し、出席調査にもなるミニッツ・ペーパーというアイデアは参考にできるものの、筆者としては、質問があらかじめ設定されているために、自由記述しにくい印象を受ける。また、毎回の授業を数字

¹ 大木充、西山教行、ジャン＝フランソワ・グラツィアニ（2010）『グラメール・アクティヴ—文法で複言語・複文化—』、朝日出版社。

² 中村啓祐、長谷川富子（1995）『フランス語をどのように教えるか』、駿河台出版社。

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

で評価するようになってきているが、単純に楽しさで評価される危険性があると思われる。毎回の授業形式は様々である上、学生はビデオや音楽などのメディア教材を取り入れると喜ぶが、学習事項によってはそれらが使えない時もあり、その際に評価が低くなるのは問題である。さらに、重要な点として、毎回の授業を「評価される」のは、教師によっては心の負担となりすぎる可能性もあるのではないだろうか。

2.3. CRÉPIEUX、CALLENS 他『Spirale スピラル』、ポートフォリオ³

教科書付属のポートフォリオは、外国語学習の経験、フランス語を勉強する理由、目標などを書く「自己観察と目標設定シート」と、さらに効果的に学ぶために、自らの学習習慣を評価させる「ストラテジーを明確にするための評価シート」からなっている。これらは、学生の自律性を育み、教師が学生の目標を把握することはできるが、両者の相互コミュニケーションは無い。

2.4 POISSON-QUINTON, MAHÉO-LE COADIC et VERGNE-SIRIEYS, *Festival 1*, MINI-PORTFOLIO⁴

MINI-PORTFOLIO は、外国語とのつながりを学生に意識させ、自らの学習について考えさせる。教科書を総て終えた後に、どのような能力をつけることができたか確認する試みは良いと思うが、どちらかというとならフランス語環境が身近にある学生向けであり、「mes contacts avec le français en dehors de la classe」など、日本人学生には適応しにくい質問事項がいくつかある。

3. 筆者の試み

3.1. 「今日のひとこと出欠表 (ミニッツ・ペーパー)」

15回の授業において、毎回、日付と数行コメントを記入できる簡単な形式のミニッツ・ペーパー。「質問、授業への意見・感想など、何でも書いてください」と説明。「出席簿の役目も果たす」と言うと、ほとんどの学生が熱心に記入している。ただし、無理は求めず、書きたくない人には、最低限、日付と「Présent(e)」を書くように指示している。これに教師がコメントをする(筆者はなるべく既習事項や辞書で調べられる短い表現をフランス語で書くようにしている)。

Fiche de présence			
N° d'élève : _____			
Année : _____			
Prénom et Nom : _____			
N°	Date	Commentaire de l'étudiant	Commentaire du professeur
1	La		
2	La		
3	La		
4	La		
5	La		
6	La		
7	La		
8	La		
9	La		
10	La		
11	La		
12	La		
13	La		
14	La		
15	La		

3.1.1. 学生の意見

学期末に学生にミニッツ・ペーパー実施をどう思うか回答してもらったところ、全体的には、「出席簿はこれで良いと思います」「この紙は必要」など、好意的な感想が多かった。特に、「この出席プリントは先生とのコミュニケーションになると

³ Gaël CRÉPIEUX, Philippe CALLENS, Tomoko TAKASE et Jun NEGISHI (2008) 『Spirale スピラル—日本人初心者のためのフランス語教材』、ピアソン・エデュケーション、Hachette.

⁴ Sylvie POISSON-QUINTON, Michèle MAHÉO-LE COADIC et Anne VERGNE-SIRIEYS (2005) *Festival 1*, CLE International.

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

思うので私はお気に入りです」「少しだけですが、先生と会話できるのが良かったです」「毎回コメント楽しみに読んでいました」「先生の一言がついてくるので良いと思います」「この紙にいろいろ書くのは個人的に好きでした」と、学生も教師とコミュニケーションできると感じたようだ。また、「出席状況がわかるので良いと思います」「色々反省とかできます」との意見もあった。

否定的な回答は少なかったが、「書くのがちょっと面倒」「早くもここに書くことがなくなってきました」というものだった。

教師側としては、授業後にコメントを読み、返答する手間はかかるが、利点を考慮すれば、40～50人規模のクラスであれば、それほど負担ではない。人数が多い場合は、総てにコメントを入れず、印のみにするなど調整すれば良い。「今回はコメントを書いてくれていない」と言う学生も時々いたが、学生には、コメントをつけない時はあっても、必ず全部に目を通してしていると伝えている。

3.1.2. 「今日のひとこと出欠表」の有用性

実施して有用だと思われたことを教師側、学生側とに分けて分析したい。

教師側

1. 授業反省・改善の資料となる。

「難しかった」という意見が多い時には、次回に追加の説明や復習ができる。

2. 学生についての情報、学生の感想を得られる。

大岩(2008)⁵が指摘するように、学生は授業だけではなく、学生生活全般で問題を抱えている時もある。実際、「最近雨が多く、学校に来るのがしんどいです」「最近生活リズムがひどいので、頑張って立て直します」「睡眠不足がたたりました」「前期よりも集中して授業に取り組めた」と自分の状態を分析している。

3. 質問にフィードバックできる。

フランス語についての質問に個人的に、あるいは必要な場合にはクラス全員に回答をすることができる。質問としては、例えば、「省略する単語って je とか le とか de とかだけですか」「男性名詞と女性名詞ってどういう基準で分けられているのですか」「enseignant はどうして g を読まないのですか」などがあつた。

4. 欠席・遅刻の把握ができる。

学則で、評価には3分の2以上の出席が必要であることから、欠席の多い学生に「頑張って来てくださいね。評価が出せなくなります」と注意を促すことができる。

5. 大きな励みとなる。

学校で一斉に行われるアンケート調査よりも、教師にとっては非常に励みになるという利点がある。筆者は何度学生に励ましとなる言葉を貰ったか数えきれない。

6. クラスの雰囲気づくりに有用。

紙媒体ではあるが、学生と教師が相互コミュニケーションを少しでも多く取ることは、間接的にクラスの雰囲気づくりにも役立ち、授業運営がしやすくなる。

⁵ 大岩昌子(2008)『フランス語学習者が学習意欲を失う要因を探る—習熟度別考察—』、名古屋外国語大学外国語学部紀要(34)、91-103頁。

学生側

1. 自分の理解度を把握できる。質問ができる。

理解の足りない部分を把握できると共に、必要であれば質問ができる。

2. 欠席・遅刻の把握ができる。

欠席・遅刻の回数を一目で把握できる。この表を使わなかったクラスの方が、「私、そんなに休んでいるのですか」「何回休んでいますか」と問う学生が多くいた。

3. 授業への参加意識を高めることができる。

長谷川（1995）の指摘通り、「自分が授業に参加しているという学習意識をもつことができ、自律的学習をすることにつながってくる」⁶ことが確認できた。

例えば、「être と avoir の使い分けが難しいです」「たまにポルトガル語に似ていたりして、おもしろいです」「男性形が優先されるのですね」「英語にない文法があって、面白かったです」「日本では握手、アメリカではハグ、フランスではビズといろいろ挨拶にもあるのだと思った」「会話の練習をすると頭に入りやすいです」など、フランス語、フランス文化についての気付きを示す回答が多くあった。

また、「(フランスの) 給食のメニューは自分で決められるのですか」「フランスのクリスマスはどんな感じなのですか」「他の授業でフランスのこと見ました。福祉がしっかりしていて、有給がたくさん取れて... (略)」「Mon sac と書いたカバン持っている人がいました」「ベルギーの留学生に Qu'est-ce que ça veut dire... ? を使ってみました」「おめでとうって、フランス語で何と言うのですか」「フランスのおすすめ映画ありますか」「フランスで最もおすすめの家庭料理は何ですか」などフランス語、フランス文化への興味・関心も示されていた。中には、教師に「『WASABI』見てください」「Youtube で African in Paris (注 Un Africain à Paris) で調べてみてください」と勧める学生も現れた。

また、「 Pendant les vacances, je dois réviser mon français. », « J'aimerais bien aller en Thaïlande. », « Je suis allée à LUMINARIÉ hier. », « Meilleurs vœux de fin d'année ! » など、頑張ってフランス語でコメントを書く学生も出てきた。

4. 自己分析、目標設定、反省ができる。

嬉しい驚きとして、学生は自発的に目標を見つけ、反省をするという自発的動機づけ、自律性を身につけてくれていた。

目標としては、例えば「来週の間テスト頑張ります」「期末もっと頑張りたいです」「しっかり復習していこうと思います」「一回抜けた所が少し理解できてないので、復習頑張ります」「出来る限り名詞の性を覚えるようにします」「代名動詞の活用を覚えておきます」「半過去と複合過去をきっちり分けられるように頑張ります」「春にしたことを思い出す。忘れているところはもう一度覚える」などがあり、反省としては、「テストだめでした。勉強の仕方が悪かったし、十分な知識をつけられていなかった」「ケアレスミスが自分には多いのだと気付けた」「テストのスペリングを少しまちがえたのがくやしいです」などがあつた。

また、学生の自発性に対して、アメリカで最も有名な大学向け教授法と言われる Chickering and Gamson (1987)⁷にあるように、教師側の「期待しています」という気

⁶中村啓祐、長谷川富子（1995）前出、261頁。

⁷ W. Chickering and Zelda F. Gamson (1987) « Seven Principles For Good Practice in Undergraduate

持ちを学生に伝えることも大切ではないだろうか。

3.2. 「中間、期末試験ミニアンケート」

もう一つの試みとして、中間、期末試験の最後にミニアンケートを設けている。質問事項（「任意回答。テスト結果、成績には一切影響しません」と明記）は、試験が、自分が思っていたより「簡単だった/少し簡単だった/思った通り/少し難しかった/難しかった」と、自分はテストに向けて「よく準備した/準備した/まずまず/あまり準備しなかった/準備しなかった」から選択してもらうもの、そして、「その他の感想、意見など」を自由記述してもらうものである。

これもテストの難易度を教師が反省、改善する重要な資料となり、学生に内省を促すことができる。自分は十分準備したかどうか、学習方法はどうか、自然と考えてくれている印象を受ける。そして、「もっと準備できたはず」「もっと...できたのでは」という反省や「次回は頑張ります」という目標設定が見られる。

4. アトリエ参加者との意見、アイデア交換

最後に参加者の方々との意見、アイデア交換を行ったので、一部紹介したい。

まず、筆者と同じようなものを使用したがるが、学部が違ふとあまり記入してくれなかったという意見があった。筆者の学生にも記入しない人もいるが、こちらが、「難しい所はありませんか」「テスト、良くできていましたね」「テスト、期待しています」などと書くと、記入してくれるようになった人も何人かいる。また、記入してくれるのをあまり期待しすぎるのも良くないかもしれない。

ある学生の質問をクラスで紹介することで、他の学生の質問を誘発するきっかけになることもあるという意見もあった。

また、高校の教員は、忘れ物をしたかどうかを評価に加えたり、はなまる/まる/さんかく/ばつの記号で自分自身の評価してもらったりといった工夫をしているそうだ。

日付をフランス語で記入するアイデアは筆者も早速導入させてもらった。

5. おわりに

授業運営とは、学生と教師とのコミュニケーションの場であり、学生側の情報、意見、態度などを教師がしっかりと把握し、それにフィードバックしていくという相互コミュニケーションを図ることが重要であり、それを基盤にしてこそ本来の学習効果が得られるのではないだろうか。また、外国語学習では、学生自身の自己分析・把握が目標を達成するためには不可欠であり、その自発的動機付け、自律性を教師が支えて行かなければならないと考える。そのために、本稿で紹介したような紙媒体のコミュニケーション方法が役立つのではないだろうか。あとは、その際に特定の設問を作るか、自由記述とするか、どのような形でフィードバックするかなどは、各々の教員の工夫次第であろう。

Education », American Association of Higher Education Bulletin, vol.39 no.7 pp.3-7.日本語で解説されたものとしては、中井俊樹、中島英博（2005）「優れた授業実践のための7つの原則とその実践手法」、『名古屋高等教育研究』第5号、名古屋大学、283-299頁を参照。